

第7次智頭町総合計画

基本計画に基づく実施計画（令和元年度）

（千円）

将来像	基本理念	基本計画					SDGs 17goals	担当課	優先度	R1年度 (実績)	R1年度 (評価)	
		視点	方針	事業 番号	番号	実施計画						
ちづ暮らしの道しるべ 一人ひとりの人生に寄り添えるまちへ	Ⅲ 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり	①学び	(1)	生活の知恵から 趣味や仕事まで、くらしを彩る 学びを増やす	1	67	保小中連携による教育活動の向上	4	教育課	○	0	B
					2	68	特別支援教育支援員の配置による特別支援教育の充実	4	教育課	◎	14,712	B
					3	69	学校評議員の意見を取り入れた学校運営の充実	4	教育課	△	0	B
					4	70	教職員の教育力の充実	4	教育課	○	0	B
					5	71	学校現場でのICT機器の活用	4	教育課	○	3,922	B
					6	72	開かれた学校づくりの充実	4	教育課	○	0	B
					7	73	児童生徒の顔が見える少人数学級の実施	4	教育課	◎	8,000	C
					8	74	学校不適応児童生徒に対する適切な指導の推進	4	教育課	◎	884	B
					9	75	学校と家庭の連携による良好な生活習慣の定着	4	教育課	○	0	C
					10	76	国際感覚の醸成（韓国江原道楊口郡との交流と英語教育の充実）	4	教育課	○	9,340	D
					11	77	学校図書館の充実（学校司書配置継続と図書館との連携強化）	4	教育課	○	5,850	B
					12	78	智頭町教育ビジョンに基づく教育（成果の検証とさらなる向上対策の推進）	4	教育課	○	500	B
					13	79	青少年の健全育成の推進	4	教育課	◎	233	C
					14	80	ちづNEXT	11	企画課	○	0	B
					15	81	地域の良さと歴史文化など、郷土を大切に学習の導入	11	教育課	○	0	B
					16	82	図書館を中心にした賑わい創出	4	教育課	◎	1,218	C
					17	83	各文化サークルの活動支援と参加者の加入促進	4.11	教育課	◎	433	C
		18	84	文化財保護・活用方策の明確化	11	教育課	◎	7,463	C			
		19	85	地域伝統文化の後継者育成	4.11	教育課	◎	0	C			
		20	86	各地区公民館の地域の生涯学習拠点施設としての明確化	11.17	教育課	◎	35,109	C			
		21	87	各地区公民館と中央公民館の役割の明確化と連携強化の促進	11.17	教育課	◎	0	C			
		22	88	図書館事業	4	教育課	◎	25,823	B			
		23	89	智頭農林高校との連携	4.11	企画課	○	1,144	C			
		24	90	森林・林業教育の推進（児童・生徒の学習体験、木育の推進等）	4.15	山村再生課	△	1,449	B			
		25	91	企業支援事業	8.9	企画課	◎	2,804	B			
		26	92	商店街との連携による空き店舗の活用検討	8.11	企画課	○	10,053	C			
		27	93	イベント活性化促進事業	17	企画課	○	77	B			
		28	94	ゼロイチの更なる発展	8.3	企画課	○	1,500	C			
		29	95	空き校舎等活用推進	11	企画課	○	4,279	C			
		30	96	空き校舎等利活用研究事業	11	企画課	○	300	C			
		31	97	地域体育館（空き校舎）の生涯学習・交流の場としての活用	11.17	教育課	○	0	C			
		32	98	百人委員会	11.17	企画課	◎	5,907	C			
		33	99	総合計画周知及び実践事業（検証含む）	17	企画課	○	0	C			
34	100	国内交流事業の積極的な推進	17	企画課	○	0	D					
35	101	国際交流の推進	17	企画課	○	0	C					
		小計								141,000		

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 保小中連携による教育活動の向上

事業番号

学び1(67)

Purpose

(事業の目的)

小1、中1で表れる問題やギャップなどに解消のため、保育園、小学校、中学校のそれぞれの間で連携していくとともに、児童生徒の相互交流を進める。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 教職員の連携
- 2 児童生徒の交流
- 3 保護者への情報提供

Do（目的達成のために実行したこと）

小1、中1で表れる問題やギャップなどに解消のため、保育園、小学校、中学校のそれぞれの間で連携していくとともに、児童生徒の相互交流を進めた。

Act（目的達成のために改善する事）

- ・ 保育士、教職員での連携をさらに進める。
- ・ 子ども同士のかかわりが生まれるような教育活動を実施し、相互交流とともに自尊感情と有用感を高めるようにする。

Check（目的達成できたかを確認）

- ・ 家庭学習の質向上事業活用による学びの連携が進んだ。実地学習が定着してきた。
- ・ キャリア教育における小中連携でカリキュラムの見直しが進んだ。
- ・ 中学校出前授業、小中学校ともに体験入学を実施し、ギャップ解消に努めた。
- ・ 学校だよりに加えてホームページ、まちコミによる情報提供も行い、保護者との連携を図った。

《評価》

B 保育園、小学校、中学校での連携が進んでおり、児童生徒理解も適時に行われている。さらに、子ども同士の関わりを模索したい。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 特別支援教育支援員の配置による特別支援教育の充実

事業番号

学び2(68)

Purpose

(事業の目的)

小・中学校に在籍する発達障がいを含む障がいのある子どもたちを適切に支援することが求められているが、教師のマンパワーだけでは、十分な支援が困難な場合がある。このような場合に支援員を配置し、子どもたちへの適切な関わりとスムーズな学級の運営にあたる。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 特別教育支援員の配置

Do（目的達成のために実行したこと）

- ・ 特別支援学級のみならず、通常学級の支援の必要な児童への適切な指導と関わりを実施。
- ・ 智頭小学校教育振興事業 支援員を6人配置
- ・ 智頭中学校教育振興事業 支援員を1人配置

Act（目的達成のために改善する事）

- ・ 配置の調整を支援会議や現状を踏まえて適切に行い、事業を継続する必要がある。

Check（目的達成できたかを確認）

- ・ 必要人員を配置し、特別支援学級と支援を要する児童の安定を図ることができている。
- ・ 支援の必要性に応じて優先順位をつけ、柔軟な配置も考えられるようになった。

《評価》

B 特別支援教育支援員の支援を必要としている児童生徒が増加傾向にあり、支援員の働きかけが教育活動に生かされている。安全安心の環境を保つことができている。今後も継続していく必要がある。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 学校評議員の意見を取り入れた学校運営の充実

事業番号

学び3(69)

Purpose

(事業の目的)

学校が、保護者や地域住民等の信頼に応え、家庭や地域と連携協力して一体となって子どもたちの健やかな成長を図るため、より一層地域に開かれた学校づくりを実施する。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 学校評議員会の開催
- 2 各種事業への出席要請

Do（目的達成のために実行したこと）

・学校が保護者や地域住民等の信頼に応え、家庭や地域と連携協力し、一体となって子どもたちの健やかな成長を図るため、より一層地域に開かれた学校づくりを実施した。

Act（目的達成のために改善する事）

・学校評議員へ普段から情報提供し、子どもたちの地域での姿を支援してもらえるように今後も継続した取り組みが必要である。

Check（目的達成できたかを確認）

・学校現場と学校評議員が連携し、地域に開かれた学校づくりに努めている。

《評価》

B 学校の様子を様々な機会を用いて伝えており、地域からの協力も得られる関係性ができている。さらに日常的に子どもたちの姿を伝え、地域における支援も引き出したい。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 教職員の教育力の充実

事業番号

学び4(70)

Purpose

(事業の目的)

町民が期待する学校教育を実現するためには、子どもたちや保護者はもとより、広く社会から尊敬され、信頼される質の高い教師を養成・確保することが必要であり、保護者や地域住民、関係機関などの協力を得ながら学校経営を行う。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 研究テーマへの取組
- 2 授業力アップ研修
- 3 人権研修の実施

Do（目的達成のために実行したこと）

- ・年間2回の学校訪問
- ・家庭学習の質向上推進事業による学びの連携と授業改善への取組
- ・授業力アップ研修会（キャリア教育・プログラミング教育）実施
- ・町人権研修会、地区学習会等に参加

Act（目的達成のために改善する事）

・教職員の業務改善について地域住民への理解を図り、学校教育との連携の在り方を考える。

Check（目的達成できたかを確認）

- ・学校訪問により、学校の実態を把握し、教職員への指導助言を適時行った。
- ・家庭学習の質向上推進事業による小中学校の学びの連携により、授業と家庭学習の連動を図ることができた。
- ・キャリア教育・プログラミング教育に対応する研修会により、見通しをもって向かう準備ができた。
- ・人権教育研修会への参加により、教職員の人権意識を高めることができた。

《評価》

B 教職員の授業力向上を小中連携により高めることができている。小中学校教職員の相互交流によりさらに連携を高めたい。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 学校現場でのICT機器の活用

事業番号

学び5(71)

Purpose

(事業の目的)

校務に係る業務の情報化による効率化やその他システムの導入を進め、教員が児童生徒と関わる時間を確保する。
ICT機器の活用により児童生徒の学力定着を図る。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 学校業務システムの運用充実
- 2 電子黒板の更新

Do（目的達成のために実行したこと）

学校業務支援システムを活用し、教員業務の効率化。
不具合がある電子黒板を更新導入する。

Act（目的達成のために改善する事）

ICT機器、システムについて効率化を視点とした活用を一層進める。
電子黒板をWindows10対応のものへ更新する。
タブレットの1人1台整備を行い、手軽に活用できる状況を作る。
ICT機器の積極的な利用に対応するため、校内ネットワークの整備を行う。

Check（目的達成できたかを確認）

学校業務支援システムについては、教職員の中でも習熟が進んできてはいるが、有効利用の状況が教職員の中でばらつきが出てきている。
電子黒板の更新が完了し、活用した授業も増えてきた。他の電子黒板もWindows10への対応が出来ておらず更新が必要となった。

《評価》

B 県で統一の学校業務支援システムが導入され、校務に係る業務の情報化による効率化を進めている。今後、授業でのICT機器の活用を行うための整備など、さらなる取り組みが必要である。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 開かれた学校づくりの充実

事業番号

学び6(72)

Purpose (事業の目的)

学校が、保護者や地域住民等の信頼に応え、家庭や地域と連携協力して一体となって子どもたちの健やかな成長を図るため、より一層地域に開かれた学校づくりを進める。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 学校公開日（参観日）
- 2 学校だよりの配布
- 3 ゲストティーチャーの活用

Do（目的達成のために実行したこと）

学校が、保護者や地域住民等の信頼に応え、家庭や地域と連携協力して一体となって子どもたちの健やかな成長を図るため、より一層地域に開かれた学校づくりを進めた。

学校公開日を設定し、保護者、地域住民への学校教育活動を公開した。
ゲストティーチャーの授業への参加協力を各学年で実施した。

Act（目的達成のために改善する事）

・地域に開かれたカリキュラム作りを進め、どの学年のどの活動において地域との連携が可能か検討する地盤づくりを行う。

Check（目的達成できたかを確認）

・参観日などの学校公開日や行事への参観・参加を促すことにより、学校教育活動への理解が進んだ。
・学校への地域住民の参画により、教育活動への理解や協力体制の構築が進んだ。

《評価》

B 学校が様々な機会を設けて保護者、地域住民へ教育活動を公開し、ゲストティーチャーとして参画を依頼することによって、智頭の教育の広がりが生まれている。今後は地域とともにカリキュラムを検討できるように進めたい。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 児童生徒の顔が見える少人数学級の実施

事業番号

学び7(73)

Purpose

(事業の目的)

児童生徒の集中力、理解力、意欲の持続など、教師からの声かけや机間指導の面、きめ細かな個々への指導や支援を考えた場合、1学級の人数は30人程度までが適切である。県の事業を活用し、少人数学級事業を継続実施する。

Plan（目的達成のための計画）

県の事業を活用し、少人数学級事業を継続実施する。

Do（目的達成のために実行したこと）

- ・ 県への事業活用申請
- ・ 少人数学級事業実施のための予算確保（町負担ありの事業分）

Act（目的達成のために改善する事）

児童、生徒数の減少により今後、少人数学級事業（町負担あり）の活用が増える。予算確保に向けた計画が必要となる。

Check（目的達成できたかを確認）

少人数学級事業を継続実施するできめ細かな個々への指導や支援を行うことができた
平成31年度は、小学校2クラス、中学校1クラスが該当

《評価》

C きめ細かな個々への指導や支援を考えた場合、1学級の人数は30人程度までが適切である。今後も県の事業を活用し事業を継続実施する。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 学校不適応児童生徒に対する適切な指導の推進

事業番号

学び8(74)

Purpose

(事業の目的)

相談員の配置や、スクールカウンセラーを活用し、児童生徒の相談を受けたり、家庭との連携を図ることにより不登校をなくしていく。スクールソーシャルワーカーの配置により児童生徒、家庭への支援の充実。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 相談員等の配置
- 2 スクールカウンセラーの活用
- 3 スクールソーシャルワーカーの配置

Do（目的達成のために実行したこと）

学校生活適応支援員の配置
スクールカウンセラーの活用とスクールソーシャルワーカーの配置により児童生徒、家庭への支援の充実を図った。

Act（目的達成のために改善する事）

・特別支援教育との関連も踏まえ、早期支援コーディネーターとスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの連携を図る。

Check（目的達成できたかを確認）

- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの連携により、不登校や不適応に対して早期に対応することができるようになった。
- ・継続的支援が必要な児童生徒に対しても対応できるようになっている。
- ・校内支援会議が小中学校ともに積極的に実施できるようになっている。

《評価》

B スクールソーシャルワーカー配置が3年目となり、福祉課との連携も含めて児童生徒の家庭を背景とした支援が可能になっている。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 学校と家庭の連携による良好な生活習慣の定着

事業番号

学び9(75)

Purpose

(事業の目的)

家庭と地域の力を引き出し、生活習慣の充実を図るとともに、外部専門家を招へいし、講演会を開催する。家庭では、望ましい生活リズムの習慣化や計画的な家庭学習の実践化に努め、根気強く学習に取り組もうとする姿勢を身につけさせ、生活を自己コントロールする強い意志を養う。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 講演会の実施
- 2 PTA研修会の実施
- 3 ノーメディアデーの取組

Do（目的達成のために実行したこと）

- ・生活習慣アンケートの実施
- ・ノーメディアデーと学校園におけるメディコンデーの連携実施
- ・メディアに係るPTA研修会の実施

Act（目的達成のために改善する事）

- ・インターネット端末の所持率増加により、よりよい活用の仕方を学べるようにする。
- ・児童生徒による自主的なメディアコントロールの動きを引き出す。（生徒会中心）

Check（目的達成できたかを確認）

- ・生活習慣アンケートの分析結果を生かした保護者への啓発からメディアに係るPTA研修会の実施につながっている。
- ・メディアコントロールの必要感が保護者にも見られるようになっている。

《評価》

C インターネット端末を持つ児童生徒が増えたことで新たな課題も生じている。学校と連携したメディアコントロールの取組が必要である。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 国際感覚の醸成（韓国江原道楊口郡との交流と英語教育の充実）

事業番号 学び10(76)

Purpose (事業の目的)

智頭町と韓国楊口郡の友好提携協定書に基づき、中学生を中心とした青少年交流事業を実施。また、中学校生徒の英語教育力の向上並びに小学校から早期に生きた英語に触れ、英語教育の充実にむけた実践指導を行うとともに国際理解・国際交流を深めるため、外国語指導助手を配置する。小学校での外国語活動の必修化に対応する事業の実施。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 夏休み期間を利用した楊口郡交流の実施
- 2 小中学校にALTの配置活用
- 3 小学生を対象とした学力向上事業（土曜日英語会話教室）

Do（目的達成のために実行したこと）

- 1 楊口郡交流
4泊5日の受け入れにむけ、4月から受け入れ家庭を募集。
- 2 ALTの配置活用
ALTを中学校・小学校にそれぞれ配置 + 保育園でも活用
- 3 学力向上事業（英語）
土曜日を活用し、小学生英会話教室を開催。講師にはALTを活用。

Act（目的達成のために改善する事）

- 1 楊口郡交流
実務者協議を経たのちに、事業実施を検討する。
- 2 ALTの配置活用
ALTの空き時間の活用方法や、学校での指導等を強化していく。
- 3 学力向上事業（英語）
土曜日は習い事や、塾などがあり参加者に制限が生じるため、夏休みを活用した英会話教室へと内容を検討する。

Check（目的達成できたかを確認）

- 1 楊口郡交流
準備は順調であったが、国際情勢の影響に伴い訪問団側の辞退により、事業は中止。
- 2 ALTの配置活用
小学校・中学校での活用方法について振り返る。
(ALTの空き時間の活用方法等)
- 3 学力向上事業（英語）
参加者・保護者の声を聞きながら、事業内容を振り返る。

《評価》

D: 楊口郡交流事業については、国際情勢の影響に伴い事業実施の見込みがたたない。ALTの活用については、活動内容を検討していく必要がある。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 学校図書館の充実（学校司書配置継続と図書館との連携強化）

事業番号 学び11(77)

Purpose

(事業の目的)

学校図書館は、子どもが楽しく学び心育む上で重要な役割を果たす。また学校司書は、子どもと資料や情報をつなぐ不可欠な存在である。第6次総合計画「読書の一層の推進を図るための図書館との連携強化」「学校図書館への臨時職員の配置検討」（配置済）を「学校図書館の充実」とし更に向上させ継続する。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 小中学校図書館への学校司書配置継続
- 2 智頭図書館との連携強化
- 3 図書購入費の充実
 - ・ 学校図書館図書標準の達成

Do（目的達成のために実行したこと）

- 1 小中学校図書館へ学校司書を配置（臨時職員）
- 2 智頭図書館と連携し、授業支援や司書の研修を実施。
- 3 学校図書館の蔵書目標達成のための図書購入の予算化。

Act（目的達成のために改善する事）

- ・ 小中学校図書館への学校司書配置継続
- ・ 智頭図書館とのさらなる連携強化
- ・ 図書購入費の充実
- ・ 司書研修の実施

Check（目的達成できたかを確認）

- ・ 小中学校図書館へ学校司書を配置した。
- ・ 図書の充実、智頭図書館との連携により、さらに子どもたちが読書に親しみ、学ぶ体制が確保できた。
- ・ 学校図書館を利用した授業が増えた。
- ・ 小学校、中学校ともに学校図書館図書標準を達成した。

《評価》

B 子どもたちはよく学校図書館を利用しており、読書センター、学習センターとして役割が確保されている。学校図書館の充実は、子どもが楽しく学び心育む上で重要な役割を果たすため、今後も継続して事業に取り組む必要がある。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 智頭町教育ビジョンに基づく教育（成果の検証とさらなる向上対策の推進）

事業番号

学び12(78)

Purpose

(事業の目的)

智頭町を愛し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和がとれ、『生きる力』をもつ子どもを学校・家庭・地域で育成するという基本理念の達成のため教育ビジョンに基づき取組と検証を行う。

Plan（目的達成のための計画）

1 創造的学習

Do（目的達成のために実行したこと）

- ・地域学習の実施
生活科や社会科、総合的な学習の時間を中心とした地域学習
- ・町内学校ボランティア人材の活用
- ・中学校百人委員会での提案と実践

Act（目的達成のために改善する事）

・学校の負担感が軽減され、児童生徒の学びのプロセスが十分に保障できる活動の在り方を検討する。

Check（目的達成できたかを確認）

- ・学年ごとに地域学習を進めることができた。
- ・町内学校ボランティアを活用し、地域の強みを生かした学びが展開できた。
- ・百人委員会での智頭図書館建設に向けたワークショップなど積み上げが成果として表れてきた。

《評価》

B 智頭町教育ビジョンに基づく教育活動が地域の力を得て進められている。児童生徒が将来の目標を持てるよう、伝統と革新の部分をうまく融合した教育活動をさらに考えていく必要がある。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 青少年の健全育成の推進

事業番号 学び13(79)

Purpose (事業の目的)

青少年育成団体等と連携し、青少年の見守り活動に始まり、体験と交流を通じたまなびの場を提供し、青少年の健全育成を図る。

Plan（目的達成のための計画）

- 青少年育成指導員のスキルアップと組織強化
- 青少年育成指導員によるサマーキャンプの開催
- 青少年育成指導員によるチャレンジ教室の開催

Do（目的達成のために実行したこと）

- 青少年育成指導員協議会
 - ・7回実施（サマーキャンプ、チャレンジ教室の実施について）
- 国立吉備青少年の家でサマーキャンプの実施

Act（目的達成のために改善する事）

- 青少年育成指導員のスキルアップと組織強化を図る
- 事業を振り返り、事業内容を検討し、翌年度事業に活かす

Check（目的達成できたかを確認）

- 青少年育成指導員協議会で事業の振り返りの実施

《評価》

- C 事業の確実な実施は当然であるが、事業の内容が課題となっている。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業）

担当課 企画課

事業名： ちづNEXT

事業番号 学び 14 (80)

Purpose

(事業の目的)

中学生が智頭町のことを学習することで郷土愛を育み、その経験を活かし百人委員会の企画立案や実践に繋げる。

Plan（目的達成のための計画）

○中学生の総合学習で智頭町に関する学習を実施する。

Do（目的達成のために実行したこと）

○町職員による中学生2年生への智頭町に関する説明
→疎開保険、SDGs、獣害対策、認知症について説明
・7月16日 第1回ちづNEXT開催（安道のみで役場の業務内容について説明）
・9月17日 第2回ちづNEXT開催（1回目の説明を受け、興味のあるテーマ4つを決めてもらい、中学3年生に上記のテーマの担当者が詳しく説明をした）
・9月26日、10月8日、11月20日 第3回ちづNEXT開催（4つのテーマごとにグループ（各約10名）をつくり、百人委員会でどのような活動ができるか話し合いを行った）

Act（目的達成のために改善する事）

○今回4つのテーマで百人委員会の企画提案に向けてグループワークを行ったが、グループの企画内容により活動時間の差が出てくるので、限られた授業数の中で活動が進められるよう提案数を1~2つ程度にするなどの改善が必要と考えられる。

Check（目的達成できたかを確認）

○中学生に智頭町について知ってもらう事で、智頭町の課題や中学生にできることを考えて貰うことができた。また、中学生が主体で百人委員会の企画提案に向けて話し合い、具体的なイメージを持つことが出来た。

《評価》

B：引き続き中学生が智頭町について学習できるよう、中学校、所管課と連携をとって進める

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 地域の良さと歴史文化など、郷土を大切にする学習の導入

事業番号 学び15(81)

Purpose (事業の目的)

智頭町で生まれ育つ子どもたちが、智頭を学ぶことによって将来にわたって郷土に愛着を持ち、将来、智頭に住んでも、また、智頭の外に住んでも、郷土を愛する心の育成を図る。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 総合的な学習の時間等における地域学習
- 2 林業体験

Do（目的達成のために実行したこと）

山村再生課、企画課との連携推進
百人委員会事業活用（智頭中学校3年生）
林業体験（智頭小学校5年生）

Act（目的達成のために改善する事）

小中学校において、社会に開かれた教育課程の編成が求められる。
授業のテーマに関連する部署が、事業の課題を整理し、小中学生が取り組みやすい条件を整えることが肝要となる。
課題解決に向かうプロセスを青少年の人財育成プログラムとして捉え、児童生徒の学びを深めるとともに、自己有用感を満たす内容を心がけたい。

Check（目的達成できたかを確認）

地域をのの仕事や人、資源を知り、郷土を愛する心を育てる授業を実施することができた。

《評価》

B 各課と連携し、有意義な授業が実践できた。今後は学校の負担を減らしつつ、効率的に社会学習ができる環境を整えることが必要となる。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 図書館を中心にした賑わい創出

事業番号 学び18(82)

Purpose (事業の目的)

令和2年度開館予定の新図書館は、住民に愛され必要とされる場となることを目指す。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 新規図書館利用者開拓
- 2 賑わい創出のための事業

Do（目的達成のために実行したこと）

- 福祉課前図書館コーナーの設置と運営
- 地域への出前講座
- 講演会、講座の開催
- 住民ワークショップの実施
- 企画課との事業連携

Act（目的達成のために改善する事）

- 未登録の児童・生徒への新規登録を働きかける
- 一般成人の図書館への関心を高める
- 関係機関との連携を強化する

Check（目的達成できたかを確認）

- 図書館の利用者を継続性のある利用につなげていくことが課題
- 関係機関とのさらなる連携が必要

《評価》

- C 新しい図書館が、読書や本の貸出だけの場ではなく、まちの拠点として住民の居場所や交流の場となることを周知していきたい。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 各文化サークルの活動支援と参加者の加入促進

事業番号 学び19(83)

Purpose
(事業の目的)

智頭町文化協会の活動を支援し、文化活動への参加、サークルへの加入を促進する。

Plan（目的達成のための計画）

- 智頭町文化協会の活動支援
- 智頭町文化祭の開催

Do（目的達成のために実行したこと）

- 文化協会代表者を9回開催
- 智頭町文化協会活動費の補助
- 智頭町文化祭展示発表、芸能発表の開催
- サマーコンサート、ふれあいコンサートの開催

Act（目的達成のために改善する事）

- 文化協会加盟団体相互の連携強化のための会議が必要である

Check（目的達成できたかを確認）

- 智頭町文化祭へ各団体からの展示物等の減少
- 文化協会会員の減少及び高齢化

《評価》

- C 各文化サークルは、住民にとって多様な活動の場となっている。その中心となる文化協会は、加盟団体会員の高齢化が課題となっている。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 文化財保護・活用方策の明確化

事業番号 学び20(84)

Purpose

(事業の目的)

文化財保護審議会等を通じて文化財保護に関する条例の整備、町民への啓発・意識向上を図る。

Plan（目的達成のための計画）

- 文化財保護審議会の開催
- 町内文化財の調査・研究

Do（目的達成のために実行したこと）

- 智頭の林業景観整備計画に伴う整備計画検討委員会の開催
- 重要文化的景観エンブレムの作成
- 間接補助による、下町公民館、中町公民館の外壁修繕

Act（目的達成のために改善する事）

- 町内文化財の活用が必要である
- 専門的知識が必要となるため、県文化財担当者の応援が必要である

Check（目的達成できたかを確認）

- 町内会要望であった外壁の修繕を行うことができた

≪評価≫

- C 専門的知識を習得した学芸員等の人材が必要である

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 地域伝統文化の後継者育成

事業番号 学び21(85)

Purpose

(事業の目的)

伝統芸能、伝統文化保存会と連携し、後継者の育成を推進する。

Plan（目的達成のための計画）

- 伝統芸能、伝統文化の保存活動の支援
- 無形民俗文化財の記録・保存

Do（目的達成のために実行したこと）

- 智頭町社会教育計画に具体的に記載
- 重要無形民俗文化財「因幡の麒麟獅子舞」に指定にむけ関係団体への合意形成

Act（目的達成のために改善する事）

- 行政や地域、住民、関係団体が連携していく必要がある
- 記録、保存活用を確実に実施する必要がある

Check（目的達成できたかを確認）

- 智頭町社会教育計画に示された事業を推進できなかった
- 無形民俗文化財「因幡の麒麟獅子舞」が国指定となった

《評価》

- C 担い手の高齢化・後継者不足が大きな問題があるが、麒麟獅子が有形民俗文化財指定に向けた取り組みができた

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 各地区公民館の地域の生涯学習拠点施設としての明確化

事業番号 学び22(86)

Purpose (事業の目的)

地域の生涯学習の拠点として地区公民館の運営、施設の維持・管理を行うとともに、公民館活動費の一部を委託料として支払う。

Plan（目的達成のための計画）

- 町内7地区公民館の運営、施設の維持管理等を各地区公民館と共同で行う
- 各地区公民館で自主・独創的な活動を熟成される。

Do（目的達成のために実行したこと）

- 山形地区公民館会議室にエアコンを設置
- 各地区公民館で独創的な事業に取り組んだ

Act（目的達成のために改善する事）

- 町主催の行事を事前に把握し、公民館行事の日程を調整する必要がある

Check（目的達成できたかを確認）

- 各地区公民館連絡協議会を開催し、事業の問題点等を話し合った

《評価》

- C 各地域の交流・生涯学習の拠点として活発に活用されているが、老朽化も進んでおり今後随時修繕の手を入れていく必要が見込まれる。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 各地区公民館と中央公民館の役割の明確化と連携強化の促進

事業番号 学び23(87)

Purpose (事業の目的)

地域の生涯学習の拠点として地区公民館事業とあわせて町全域を対象とする中央公民館事業を実施し社会教育の充実を図るとともに、地区公民館、中央公民館の連携を図る。

Plan（目的達成のための計画）

- 地域の生涯学習の拠点として町全域を対象とする公民館事業を展開し社会教育の充実を図る
- 統括公民館として各地区公民館の連絡を密に、中央・各地区館連携のもと、町民全世代の学習活動の拠りどころとなる施設づくり

Do（目的達成のために実行したこと）

- 各地区運動会、公民館祭の巡回視察
- 公民館連絡協議会の開催

Act（目的達成のために改善する事）

- 中央公民館が町民全体を対象とした学習を開催する必要がある

Check（目的達成できたかを確認）

- 各地区公民館の行事を把握することができた。

《評価》

- C 各公民館の連携の中心としての役割は果たせていたが、生涯学習の拠点としての機能は今後充実させていく必要がある。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 図書館事業

事業番号 学び24(88)

Purpose (事業の目的)

住民の生涯学習の拠点として、資料を整備し専門職の司書によって図書館サービスと読書事業の展開を図る。

Plan（目的達成のための計画）

- 1 図書館サービスの充実と新規図書館利用者の開拓
- 2 子どもの読書環境の整備
- 3 地域資料の充実
- 4 高齢者の読書活動の支援
- 5 図書館利用啓発事業

Do（目的達成のために実行したこと）

- 図書館FBの活用
- 図書館Webサイトの立ち上げ
- 保育園・学校図書館との連携
- 地域資料寄贈のよびかけと献本の受入
- あたまイキイキ音読教室の実施と出前講座
- 図書館まっりの開催

Act（目的達成のために改善する事）

- 住民への図書館サービスPRの強化
- 保育園・学校図書館との連携の継続
- 地域資料の掘り起こし
- 住民参画の図書館事業の実施
- 新図書館での新規事業の立ち上げ

Check（目的達成できたかを確認）

- 図書館を利用する住民の割合を上げていくことが課題
- 保育園・学校図書館との連携による子どもの読書活動の推進
- 寄贈本による「まち文庫」（新規事業）の立ち上げ
- 事業実施を今後町全体へ広げることが課題

《評価》

B 町民全体の図書館利用や周知が今一歩ではあるが、Webサイト、寄贈本による「まち文庫」など新規事業の立ち上げを今後の新図書館開館へつなげ図書館事業全体をさらに充実させていく。

Purpose
(事業の目的)

智頭農林高校の魅力アップを行うため、地域おこし協力隊を派遣し、学校に新しい風を吹かせ、農林高校の活性化を図る。
また、百人委員会学生の部に参加し、学生自らが汗をかき、実践することで、やりがいを生ませることを目的とする。

Plan（目的達成のための計画）

- 百人委員会学生の部への参加
- 地域おこし協力隊派遣による農林高校活性化

Do（目的達成のために実行したこと）

- 百人委員会活動の実践・企画提案会への参加
（智頭宿魅力アッププロジェクト、ちのりんショップの運営）
- 地域おこし協力隊の募集（6月で任期満了のため）

Act（目的達成のために改善する事）

- 地方と都会のニーズ把握
（出張ちのりんショップを通じ、地方と都会のニーズの違いを検証。
視察・見学学習を充実させ、ちのりんショップの運営に活かす。）
- 活動の周知強化
（生徒の地域への愛着心を育むだけでなく、授業内容等を披露することで地元住民の智頭農林高等学校への関心・理解を深める場として活用する。）
- 地域おこし協力隊制度の有効活用

Check（目的達成できたかを確認）

○百人委員会活動への参加により、智頭宿の魅了向上、商店街の活性化につながった。
<智頭宿魅力アッププロジェクト（格子製作・藍染のれん製作）>
格子製作藍染のれん製作ともに地域の認知度も徐々に向上している。
地元住民を講師に事業を進め、地域との交流を深めた。
<ちのりんショップ運営>
くつろぎタイムカフェとして店内にカフェスペースを設け、学校で栽培した野菜の販売に加え、新たな加工品の試作品無料提供やフラワーアレンジメントの実演を行った。また、出張ちのりんショップを岡本商店街で開催し、学校生産物の付加価値に気づくことができた。
○地域おこし協力隊の募集・・・募集したが辞退のため採用に至らなかった。

《評価》

C：継続的な事業となっている中、新たな加工品の開発や改善策の立案など、自分たちの活動に対する誇りや自信、地域への愛着心は育まれている。
今後も智頭農林高校と連携し、より方針に沿った協力隊の活用が求められる。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 山村再生課

事業名： 森林・林業教育の推進（児童・生徒の学習体験・木育の推進等）

事業番号 学び17(90)

Purpose (事業の目的)

幼少期から木にふれあうことで森林に関心をもつことを醸成し、加えて子育て世代へ向けて木（木材）の良さを普及することにより、生活の中における木材への関心を深めるとともに、町内の学校と連携して、森林・林業教育をサポートしていくこと。

Plan（目的達成のための計画）

- 町内の新生児に木製おもちゃ（智頭町産材製）を誕生記念として贈呈贈呈の際には、贈呈式を木育キャラバンin智頭町と同時に開催する。
- 木製おもちゃの製作体制を再構築するため、新たな製作者を検討する。

Do（目的達成のために実行したこと）

- 町内の木工作家に依頼し農林高校と連携を行いながら智頭杉を使用した木製トラックを平成31年1月～令和元年12月に誕生した新生児23名に贈呈した。
- 木育キャラバンin智頭町を開催
木のぬくもりを直接手に触れて感じてもらい、子育て世代の木への理解を深める活動として開催。

Act（目的達成のために改善する事）

- ウッドスタート事業ではデザイン業務について外部委託し、デザインを1本化することで町内の生産体制構築を行い事業を効率よく行う。
- 町内の子供達が集まる施設（保育所等）に智頭杉製の木のおもちゃを常時設置し、身近に木のおもちゃで遊べる環境を作り、木育について日々体験できる空間を提供する。

Check（目的達成できたかを確認）

- 木のおもちゃ贈呈式を木育キャラバンin智頭町と同時開催し、13組の新生児の家族が参加、誕生記念品として作り手の想いや木育について伝えることが出来た。
- 木育キャラバンin智頭町では、広く告知を行ったことで町内外から子育て世代及び木に関心のある方々230名が参加、木育についての周知、木のぬもり等を直接伝えることが出来た。

≪評価≫

B：新生児へ誕生記念品の贈呈及び幅広い世代を対象とした木育キャラバンの開催により幼少期から木のぬくもりに触れ、あたたかみを感じることで、智頭林業や木材への関心を深め木への関心を高めることができた。

Purpose
(事業の目的)

経済活性化と雇用機会の確保・創出のため、企業ニーズに応じた柔軟な補助制度の検討、創設を行う。また、町内製品等を公共事業や補助事業等に採用するための条例を制定し、地場産業を強化する。

Plan（目的達成のための計画）

- 町内企業訪問による個別ヒアリングシートの作成
- 智頭町・鳥取県補助制度の周知
- 町内企業の立地の促進及び雇用機会の拡大を図るための企業支援

Do（目的達成のために実行したこと）

- 定期的な町内企業訪問の実施、ヒアリングシートの作成
- 設備投資及び町内在住の新規雇用を行った事業所への財政支援
- 町内中小企業の活性化及び経営の安定化を目的とした補助制度を創設
(信用保証料補助金：県の融資制度を活用した際の信用保証料の助成)

Act（目的達成のために改善する事）

- 企業ニーズに応じた現行補助制度の改正
- 商工会との連携による補助制度周知の徹底
(商工会と連携して補助制度情報を周知し、相談しやすい体制を構築する)

Check（目的達成できたかを確認）

- 町内企業訪問の実施により各事業所が抱える懸案事項、今後の設備投資などの情報を知り得ることができた
- 町内中小企業の設備投資に要する経費並びに町内在住新規雇用に対する財政支援を行い、経済の活性化及び町民生活の安定と向上に貢献
- 新たな補助制度により町内中小企業の活性化・経営の安定化に寄与

≪評価≫

B：町内中小企業への財政支援により、事業の活性化や経営の安定化などに寄与している。

Purpose

(事業の目的)

かわらまち商店街の空き店舗は持ち家である場合が多いが、意向調査を行い、起業・創業・チャレンジショップなど、賑わい創出に受けて活用を検討していく。

Plan(目的達成のための計画)

- 智頭農林高校との連携による商店街店舗の活用（ちのりんショップ）
- 智頭町商工会・町内事業所との連携による「智頭まちゼミ」の開催支援を行い、地域の事業所と消費者との関係づくりを進め、町内事業所・経営者のファン創出による地域活性化を図る。
- ちづみちエリアリノベーション事業の展開に向け、関係職員・町内関係者によるワーキンググループを開催し、地域資源を活かした新しい公共空間の実現に向けての戦略づくりを行う。

Do(目的達成のために実行したこと)

- かわらまち商店街でのちのりんショップ（定期開催）、兵庫県岡本商店街での出張ちのりんショップの開催。
- 智頭町商工会に対し、智頭まちゼミ開催の支援を実施。（10/1～10/31の約1ヶ月間で町内24事業者の参画、計39講座を展開。）
- 全7回のワーキンググループを開催し、当該事業を通じて本町が目指すまちづくり戦略を策定。

Act(目的達成のために改善する事)

- 現行ちのりんショップの集客増加及び各種イベント実施に向けた検討会の開催
（来店者数の伸び悩みの打開策として、ちのりんショップに限定しない各種イベント開催やチャレンジショップ等による活用も含めた地域の活性化策を図る必要がある。今後も継続して地域と連携を取り、各種イベント開催等を通じて来店者数を増やす。）
- 引き続き智頭まちゼミ開催の支援を行い、地域連携による更なる魅力発信のほか各種サービスや商品開発など、空き店舗等も活用した商店街の活性化を図る。
- 策定した戦略に基づき、エリア内で活動する各種団体と連携し、ちづみち活用のための社会実験や空き不動産等の有効活用を検討する。

Check(目的達成できたかを確認)

- ちのりんショップの開催を通じて、地域の方々が訪れ、商店街の活性化に貢献したが集客については横ばい状態となっている。
新たな取り組みとして、加工品の試作品を無料提供によるモニタリングや授業内容の成果披露など今後の更なる活動発展に努めた。
- 各種事業者による講座開催により、新たな魅力の発掘や地域・人とのつながりに寄与し、地域の活性化につながった。
- 戦略作りにおける智頭のキーワード、未来の客層、地域の潜在的な魅力など、どこにターゲットを絞った戦略にするかといった事業実施に向けての可視化が図れた。

◀評価▶○：智頭農林高校との連携によるちのりんショップの開催は閑散化した商店街の活性化に一石を投じているものの集客に伸び悩んでいる。ちのりんショップだけに限定しない各種イベント実施など模索して集客力アップを目指す必要あり。また、智頭まちゼミを継続事業として支援し、更なる町内事業者の魅力発信、地域とのつながりをより強固なものに転じ、賑わい創出につなげる必要がある。ちづみちエリアリノベーション事業については、引き続き関係者と連携して具体的な活動を検討するほか、社会実験を行うなど地域の潜在的可能性を見出すことが重要となる。

Purpose

(事業の目的)

町内のイベントに出店団体の参加を促す。

Plan（目的達成のための計画）

- 町のイベントを盛り上げるために「杉小判」を活用し、出店者の増加を目指すことで、町全体の盛り上がりを図る
- 地域活性化制度の周知。
- 制度について問題点等の検討。

Do（目的達成のために実施したこと）

- イベント出店者へ担当者から直接的なPR活動を行い、周知した。
- 広報・SNS等での周知。
- 前年度出展者へ連絡を取り、今年度も出店してもらえるよう促した。

Act（目的達成のために実行する事）

- イベント実行委員会・地区行事等での制度PRの実施。
- 利用しやすいある制度にしていくため、出店者アンケートを行う。

Check（目的達成できたかを検証）

- 直接的なPR活動によって、制度の周知は概ねできた。今後各地区行事等でのPRを継続的に実施し、地域イベントへのさらなる出店者の増加に期待。

《評価》

B：令和元年度は、当制度を5団体(輪舞・商工会青年部・夢来づくり中原・商工会女性部、智頭やたら会)が活用した。今後、更なる周知活動に力を入れ、賑わい創出の観点から町内イベントに出店する団体を増やす必要がある。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対象イベントが中止になる可能性があるため地域通貨発行条件の最低出店回数などを特別に改める必要がある。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業）

担当課 企画課

事業名： ゼロイチの更なる発展

事業番号 仲間 4(94)

Purpose (事業の目的)

平成9年度から始まっている日本1/0村おこし運動は現在、地区振興協議会を中心に活動している。この地区振興協議会のソフト事業に対し補助を行う。また、地区振興協議会が行政と住民の中間的組織となり、地域活性化となる事業を行う。また、事務局員に地域おこし協力隊、集落支援員等を配置し、事業運営を促進する。

Plan（目的達成のための計画）

- 定期的な連絡協議会の開催
- 各地区振興協議会事務局との連携強化
(各地区事務局との相談しやすい体制を構築)
- 円滑な事業運営を行うための集落支援員の配置
- 各地区における将来ビジョンの形成・具現化
- 補助制度終了後の地区のサポート

Do（目的達成のために実行したこと）

- 定期的な連絡協議会の開催による情報共有
- 補助制度の活用による将来ビジョンの形成
(富沢地区振興協議会)
- 指定管理者制度導入に向けた協議（旧山形、旧那岐、旧山郷）

Act（目的達成のために改善する事）

- 指定管理者制度導入後に発生する問題に対して柔軟に対応していくことが必要
- 継続的な関係者との連携及び強化
(引き続き各地区振興協議会が連携を取り、地域活性化の強化を図る)
- 令和2年度は旧那岐小学校の改修に向けて設計事務所の選定を行う。認識の違いが出ないように那岐住民と設計事務所と協議を進めていく。

Check（目的達成できたかを確認）

- 連絡協議会の開催により各地区の状況など情報共有が図れた
 - 集落支援員の配置により各地区振興協議会における円滑な事業運営に貢献した。
- また、県の補助制度の活用して、地域が抱える課題・将来ビジョン等を検証し、持続可能なまちづくりの実現に向けた一歩を踏み出すことができた。（富沢コミュニティセンター建設）

《評価》

C：指定管理者制度が導入され、地域運営に向けた取り組みが進んでいる。富沢地区振興協議会、土師地区振興協議会と指定管理者制度導入に向けて協議を進める。また、自立をサポートするためにも補助金等の紹介を行う必要がある。

Purpose
(事業の目的)

廃校となった5つの空き校舎を地元住民が活用について検討し、地域に見合った利活用を検討し、実践する。
また、活用するにあたり、インフラ整備については、行政が一部補助を行い、空き校舎の利活用を推進する。

Plan（目的達成のための計画）

- 各地区内の空き校舎の利活用に向けた事業協議の実施
- 智頭町補助制度の周知
- 利活用に向けた企業誘致等
- 指定管理者制度導入に向けた設備整備（旧山形、旧那岐、旧山郷）

Do（目的達成のために実行したこと）

- 空き校舎の利活用に向けた事業協議の実施並びに事業の実践
（旧山形：林業歴史資料館の拡充、電力量計取付）
（旧山郷：小規模危険物倉庫設置、やまさとセミナールーム『若杉』
玄関屋根増設）
（旧那岐：電力量計取付）
- 要望内容に対する予算確保

Act（目的達成のために改善する事）

- 今後必要となる事業の精査並びに事業計画の策定
（空き校舎を活用した収益事業の確立や企業誘致など、長期的な事業計画の策定を促し、地域の活性化を図る）
- 鳥取県補助制度の有効活用
（鳥取県の補助制度を有効活用し、今後地域づくりを進めていく上で重要となる地域計画づくりの実施）
- 指定管理者制度導入後に発生する問題に対して柔軟に対応していくことが必要。
- 令和2年度から旧那岐小学校の改修に向けて設計が開始するので、那岐地区と連携を取りながら事業を進めていく。

Check（目的達成できたかを確認）

- 事業協議の実施により、各地区での今後の活用計画などの情報を知り得ることができた
- 設備整備により地区振興協議会活動の促進に寄与。また、指定管理者制度導入に向けた準備ができた。

《評価》

C：地域に見合った利活用の検証、実践については一定の効果あり。今後の検討課題として整備したものをいかに活用し、地域の活性化・自立運営を定着させるかが検討課題。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業）

担当課 企画課

事業名： 空き校舎等利活用研究事業

事業番号 仲間 8(96)

Purpose

(事業の目的)

空き校舎等の利活調査を5地区が連携して行い、持続性を高める。

Plan（目的達成のための計画）

- 空き校舎等利活用幹事会の開催による情報共有・要望調査の実施
- 空き校舎利活用の先進地の活用事例等の研究

Do（目的達成のために実行したこと）

- 定期的な利活用幹事会の実施による各地区要望調査（那岐：プールを取り壊し、駐車場整備）
- 全国的な空き校舎利活用先進地の活用事例等の研究
※先進地視察研修の実施（和歌山県）

Act（目的達成のために改善する事）

- 各地区での研究や、先進地視察で得た情報を具現化（これまでの研究成果や、先進地視察を通じて得た情報を持ち帰り、それぞれの地区でできることを検証し、アウトプットする）
- 引き続き各地区の連携強化を図り、各地区独自の利活用・活性化を検討（今後も各地区が情報共有を図り、企業誘致等を始め独自の取り組みを検証し、地域経営や活性化に結び付ける）

Check（目的達成できたかを確認）

- 利活用幹事会を通じて各地区が検討している課題についての情報共有が図れた。
- 空き校舎利活用の先進地の視察を通じた活用事例を学び、自地域での実現性等について検証ができた。

《評価》

C：先進地視察などを通じて得た情報を今後いかに活用するか検証の必要性あり。今後も引き続き各地区振興協議会間の情報共有・連携に努める。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業） 担当課 教育課

事業名： 地域体育館（空き校舎）の生涯学習・交流の場としての活用

事業番号 仲間づくり9(97)

Purpose

(事業の目的)

廃校となった後、現在は地区公民館、地元の体育施設等として活用されている。住民が慣れ親しんだ学校施設である。今後もできる限りの補修を続け、地域のスポーツ・文化活動等に活用することで、ふたたび小学校を教育の拠点として、また、地域住民の交流の場としての活用を図る。

Plan（目的達成のための計画）

○今後もできる限りの補修を続け、地域のスポーツ・文化活動に活用

Do（目的達成のために実行したこと）

- 各地区公民館に施設使用の許可等を依頼している
- 軽微な修繕を行った

Act（目的達成のために改善する事）

○より手軽に利用可能なように、各地区毎に管理運営を委託する。

Check（目的達成できたかを確認）

- 各地区公民館行事をはじめ、町民による利活用が行われた。
- 修繕等を行い、継続した活用が可能な状態を維持した。

《評価》

C 地域のスポーツの場として、また催しの場として希望に応じて利用されている。

Purpose
(事業の目的)

町民自ら実行することによる町政への参加意識の醸成と、一般の部と学生の部のそれぞれ活動することにより、子どもの頃から自分が行動することと町が変わることへの意識づけが目的である。

Plan（目的達成のための計画）

- 百人委員会委員募集 目標100人
- 百人委員会総会・企画提案会実施
- 運営委員会開催（部長、副部長が情報共有し、百人委員会のPR、部会同士の連携などについて話し合う）
- 既存部会活動に捉われない新たな事業提案の場の創出

Do（目的達成のために実行したこと）

- 百人委員会出発式（R1.5.21）
- 百人委員会運営委員会
 - ・4回実施（活動展示・動画作成協議等）
- 百人委員会企画提案会 ・一般の部8事業、学生の部6事業
- オープン会議の開催による交流促進・新規提案の発掘
- 百人委員会活動報告動画作成
- 新規会員の獲得

Act（目的達成のために改善する事）

- 百人委員会の組織体制の再検証
（引き続き委員の固定化・活動人口減少を食い止めるために、部会の枠のない企画会の定期開催など。）
- 智頭NEXTを実施し、智頭町について学ぶ機会を増やすとともに中学1年生を対象にすることで中学3年時の受験等に活動時期が重ならないようにするなど検討が必要。
- 動画製作を行ったことでYouTube等のSNSを活用して、新たな委員の獲得等に利用する。

Check（目的達成できたかを確認）

提案が一般の部で8事業、学生の部で6事業あり、参加意識の醸成ができていると考えられるが、活動メンバーの固定化が懸案事項である。また、学生の部については、ちづNEXTに力を入れた事により提案事業数が増加し、智頭町への関心を育むことができた。

昨年からはまったこれまでの部会活動に捉われない事業提案の場としてオープン会議を開催。これまで百人委員会活動に参加したことのない人との交流を始め、オープン会議で出た意見を一部実施できた人もいた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため総会が開催できない中、活動を動画として記録し、周知するという新たな取り組みも見られた。

《評価》

C：近年、百人委員会の課題が多くなってきている中、現状の課題を究明し、誰もが参加しやすい会の運営が求められる。また、新たな委員の獲得や委員の活動意欲を高めるため、新たなPR方法の検討等が求められる。

第7次総合計画 進行管理検証シート（令和元年度事業）

担当課 企画課

事業名： 総合計画周知及び実践事業（検証含む）

事業番号 仲間づくり12（99）

Purpose

（事業の目的）

第7次総合計画の内容を住民に周知し、役場の仕事を知ってもらう。また、それについて実践したことを検証、評価し、公表することで住民に理解を図る。

Plan（目的達成のための計画）

- 総合計画実施計画の計画について、新規事業の追加等整理を行う。
- 総合計画実施計画の計画について、実績をまとめる。
- PDCAシートの公表

Do（目的達成のために実行したこと）

- 各課担当者に進行管理検証シートと実施計画書の作成を依頼し、とりまとめる。

Act（目的達成のために改善する事）

- 実施計画の振り返りや、進行管理検証シート作成について、5月末に事業が確定することから各課への依頼が6月であった。しかし、4月には概ね事業が確定しているため、来年度からは4月中には依頼をし、事業の振り返りを行う必要がある。

Check（目的達成できたかを確認）

- 新規事業の整理や、実施計画の通りに事業を行うことができたか、実施計画の入力や進行管理検証シートを作成することにより、各担当が振り返ることができた。

《評価》

C：PDCAシート作成により担当者の振り返りができた。また、PDCAシートの公表を行うことで周知ができた。

Purpose

(事業の目的)

摂津市農業祭への参加に代わる、智頭町と摂津市の交流の模索し、智頭町のPRを行う。
摂津市以外の市町村と交流の場を設け、智頭町を全国へPRする。

Plan（目的達成のための計画）

- ・他地域との交流
- ・智頭町のPR

Do（目的達成のために実行したこと）

- ・源流サミットへの参加
- ・摂津市の宿泊補助金制度登録への協議

Act（目的達成のために改善する事）

- ・町事業としての摂津市との新しい交流についての模索
- ・摂津市の宿泊費助成事業への協議の継続
- ・源流サミットへの参加の継続

Check（目的達成できたかを確認）

今年度から摂津市農業祭への参加がなくなり、町の事業として新しい交流の形を検討する必要がある。摂津市民が特定の地域で宿泊する際に宿泊費用の一部を補助する制度があり、摂津市から智頭町を宿泊費助成地域に加えたいと申し出があった。本件については現在協議中である。
また、源流サミットについては、三朝町で開催されたものに参加し、森林環境税について意見交換を行った。

《評価》

D：摂津市との交流事業について、新規事業の検討が必要である。

Purpose

(事業の目的)

1999年に友好提携を締結した大韓民国江原道楊口郡と青少年交流、民間団体交流、職員交流などを行うことで、他国の文化や制度を知り、人材育成や地域間の交友を深める。

Plan（目的達成のための計画）

友好提携を締結してから様々な事業を行い、智頭町と楊口郡の友好を深めてきたが、両地域間でのさらなる交流を深めるために職員の長期相互派遣交流事業を再開する。

地域間の交友をさらに深めると共に、人的交流だけでなく人材の育成につながるような新しい分野での交流も行っていく。

Do（目的達成のために実行したこと）

- 職員長期派遣の実施
2019年4月～2020年3月の一年間
- 町長の楊口郡 表敬訪問

Act（目的達成のために改善する事）

- 長期交流が単発的な実施にならず継続的な実施となるよう協議を行う。
- 今年度は新型コロナウイルスにより実務者協議が行えなかったことから担当者間での情報共有を綿密に行い両地域間での交流が中断しないよう良好な関係を維持していく。実務者協議についてはTV会議システムの活用をするなど見直しを行う。
- 継続課題である物的交流について協議を行う。

Check（目的達成できたかを確認）

- 職員の長期派遣を行い、異国の文化・事業の理解を深め両地域の発展に繋がる内容となった。
- 町長が楊口郡に訪問し、首長間で改めて交流の重要性について認識した。

《評価》

C: 今後も様々な交流を積極的に行い人材の育成と地域間の友好を深めていく。